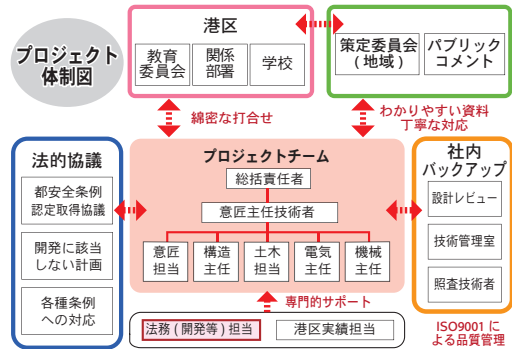


『三田台の丘に建つ、未来につながる学校を創造します』

「旧御田小学校」「旧南海小学校」の歴史の歩みを引き継ぎ、「現御田小学校」を経て、新たな歴史を継続し、新しい学びにチャレンジできる「新御田小学校」を創造します。

業務実施方針・配慮事項

- ・ 行政当局と十分に協議し確認し合うプロセスが重要
- ・ 地の利を生かした対応
- ・ 意思決定プロセスが明確な体制
- ・ 経験豊富なエキスパートでチームを構成
- ・ 全社的なバックアップ体制でチームを支援
- ・ 的確な課題提案と資料提案で業務を支援
- ・ わかりやすい資料の提供で円滑な合意形成
- ・ 手戻りのないスケジュールで業務を遂行
- ・ 『基本構想』の裏付けとなる十分な調査・研究の実施



安全な動線計画、空間整備、開発許可に該当しない擁壁改修や人工地盤の計画

● 児童・地域住民の安全・安心を最優先に考えた施設整備

- ・ **安全・安心かつ明確な動線計画**：

「公開空地」、「二つの校門」、「校庭」が連続して繋がる動線計画とし、災害時の一時避難場所として、迅速な避難を誘導できる計画。

- ・ **見守りやすい管理諸室**：管理諸室を1階校庭に面した位置に配置し、教職員が児童の校庭利用・登下校時等の姿を見守ることのできる、安全安心な学校。

● 敷地の特徴を活かしたのびのびした空間整備

- ・ **安全で緑豊かな校庭**：北側の既存クスノキ並木を残す計画により、緑が感じられ、子ども達のがのびのびと安全に遊べる空間。
- ・ 日当たりがよい普通教室、高台で眺望がよい屋上など健康的でのびやかな空間を創造。

● 開発行為に該当しない擁壁の更新・人工地盤の設置

- ・ **新設擁壁と避難通路（人工地盤）**：

敷地周囲の擁壁は開発行為に該当しないよう、現況地盤にあった擁壁高さや工法。新たに設置する避難通路（人工地盤）の安全性にも十分配慮した計画。

近隣への配慮・工期短縮・コスト縮減

● 工事車両台数を減らし近隣への騒音・振動・安全性に配慮した施工計画

- ・ **工事車両台数を減らし近隣に配慮**：工事動線が1ルートであるため、工事車両の台数を減らす事で、近隣に与える騒音・振動・安全対策に繋げる。
- ・ **誘導員の適正配置**：岬門側の区道の沿線住宅の生活動線となっているため、スムーズな誘導が行えるよう、交通誘導員を適正な位置に配置し、安全性を確保。

● 総合的な工法比較や仮設検討を行い工期短縮を図る

- ・ **校舎上部構造を軽くし工期を短縮**：上部構造が軽くなることで、地下に加わる固定荷重が減り、地下躯体量及び杭のサイズ等が小さくなるため、工期短縮・コスト縮減が可能。
- ・ **工事を円滑に進めるための工夫**：岬門側については、スムーズな工事動線を確保するための、工事に支障のない配置・平面計画。

● 施設整備費の縮減ポイント

- ・ **配置計画によるコスト縮減**：

既存建物の解体範囲と掘削範囲が重なる事で、土工事のコスト縮減を図る。

- ・ **杭打機の選定**：小型の60t程度の杭打機を使用する事で、1次根切りレベルでの打設が可能となり、杭打ちのための仮設構台が不要となるため、コスト縮減が可能。

将来の児童数増減、ICT教育及びアクティブラーニング対応した施設整備等の教育的ニーズに対応した施設整備

●児童数の増減に対応したフレキシブルな計画

- ・教室転用に対応しやすい配置計画：多目的室・少人数教室は普通教室周りに整備し、容易に普通教室に転用できるようにすることで、児童数増減の場合にも対応できるように計画。
- ・変化に対応できる構造計画：将来の教育ニーズの変化に対応できるように、各室の間仕切りは、改修工事が容易な乾式間仕切り壁を採用。
- ・改修・更新に対応しやすい計画：設備配管・配線スペースに寸法的な余裕を持たせ、将来的な更新及び保守点検を容易に行えるように計画。

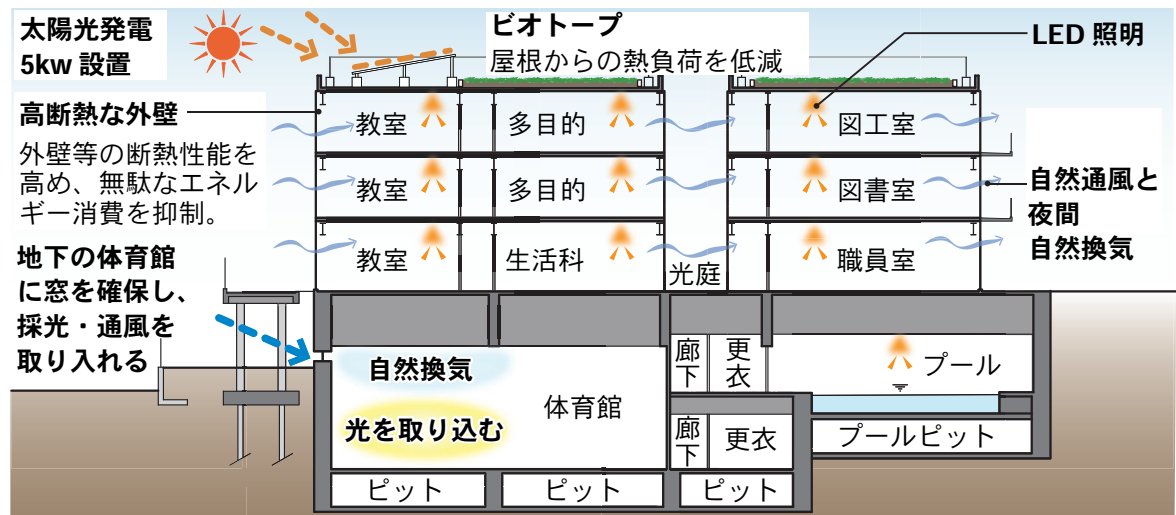
●将来の教育ニーズを見越した整備計画

- ・アクティブラーニングに対応した普通教室の整備
- ・学校の中心にラーニングセンター（図書室）を計画：学校の中心に、様々なメディアを活用できるラーニングセンターを配置。異学年の児童が出会う交流空間として整備。
- ・GIGA スクール構想に対応した ICT 環境の整備：全館 LAN を校務系と学習系の 2 系統で整備し、全教室で様々な端末を使って学習できる環境を整備。
- ・コロナ禍を踏まえた施設整備：文部科学省『学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアル』に沿った整備。



●エコスクールプラスとしての施設整備

- ・光・水などの自然エネルギーの活用、みなとモデルに対応した木材利用を積極的に取り入れ、エコスクールプラスを実現。
- ・校内の様々な場所に省エネの取り組みを示すエコサインを設け、学校全体が環境教育の場となるように整備。



●地域の避難所としての施設整備

- ・都の新型コロナウイルス感染症対策ガイドライン及び文科省の衛生管理マニュアルに基づいた避難所の整備。
- ・要配慮者が利用するエリアまでのルートは、スロープを設け、スムーズに避難できる計画。
- ・公開空地は防災広場とし、体育館への物資の運搬をしやすい計画。
- ・学校再開時は、避難エリアと明確に区画し、学校運用がしやすい計画。